

# 2017 年度事業報告書

(2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日)

日本経済は輸出の回復や公共投資の増加、企業収益や雇用環境の改善に伴い緩やかな回復基調が続いている。米国においても雇用・所得環境を受け、個人消費も底堅く推移することにより景気は拡大傾向にあるなど、世界経済は全体的に緩やかに回復する傾向にある。

翻訳業界においては、企業のグローバル展開およびインバウンド関連に伴う翻訳需要が拡大した一方、顧客からの品質要求基準の高まり、業界内での競争の激化、これに加えてニューラル機械翻訳の翻訳精度向上などにより、翻訳業界を取り巻く環境も変化しつつある。

このような環境の中で、日本翻訳連盟は翻訳業界の中核的役割を果たす組織であることを自覚し、関連諸団体との提携・協力関係を強化しながら、引き続き翻訳業界の認知度を高め、社会的な地位向上に努める。

また、会員のための業界団体として、website、JTFジャーナルを活用した情報提供など、より一層の会員サービスの向上を図るため、以下の5項目を重点施策とした。

- (1) 会員サービスの拡充、入会促進
- (2) 各委員会・事務局の体制・事業強化
- (3) 検定受験者数の増加と検定の質の向上
- (4) 国内外関連団体との提携・協力関係の強化
- (5) ISO 関連の推進

以上の活動を通じて日本翻訳連盟の各事業内容を拡充させ、一定の成果を挙げることができた。

キャンペーン、その他勧誘活動により会員数は前年比6%増加し、事業活動収入も前年比11.9%と増加した。

各事業活動は概ね順調に進展しており、翻訳祭については会場規模の制限もある中で、参加者数を前年同程を維持した上で、大きな支障・混乱なく無事に運営した。また、2018年度開催予定の翻訳祭については開催場所を京都と決定し、前倒しで企画を進め、翻訳祭当日にPRを実施した。

ほんやく検定については受験者増加に向けて、PR強化したこともあり、検定受験者数は前年比3.7%増となった。

国際規格関連では、ISO/TC37 国内委員会及び日本規格協会などの機関と協力し、ISO17100 の普及・推進に尽力した。その結果、翻訳サービス提供者の認証取得も30社以上と増加した。

その他、ジャーナルにて各事業に関する進捗、翻訳・通訳、機械翻訳関連情報等の情報提供を行った。

## ■1.翻訳事業に関する調査及び研究（定款第4条第1号関係）

### 1) 翻訳業界の調査

【実績】

2013 年度以来 4 年ぶりの業界調査を実施した。

- 『2017 年度翻訳白書』としてまとめた。会員向けには PDF 版を会員マイページにアップして常時ダウンロードできるようにし、希望しているアンケート協力者にはメール添付で送付した。

#### 【評価】

- JAT の協力も得て調査設計を行った。当連盟の業務範囲に加わった通訳に関する質問や昨今関心の高まりをみせている機械翻訳に関する質問も加え、会員の幅広い関心に応えられる調査データを提供できたのではないかと思う。
- さらに、業務上関心の高い翻訳料金については、今までは分野別に分かれていなかったが、今回は分野別に調査を行ったため、より具体的な市場取引価格の情報を提供することができた。
- 今回の調査では、調査対象法人を前回の 771 社から 1137 社に大幅に増やしたにもかかわらず、24.5%と高い回収率を維持した。また、個人の部の有効回答数も前回の 429 人から 540 人に増加した。翻訳業界調査委員会の委員も一切個別の回答を見ることができないことを明確に打ち出すことにより、安心して回答して頂けたということも一因ではないかと考えている。
- 英語版制作については、2018 年度の作業として若干ずれ込むこととなった。

#### 【担当】

翻訳業界調査委員会

委員長：廣瀬紀彦（JTF 理事）

委員：伊藤千尋（(株)インターナショナル・インターフェイス）、井本大助（(株)翻訳センター）、齊藤貴昭（JTF 理事）、筆谷信昭（日本映像翻訳アカデミー(株)）、トバイアス ラッシュブルック（JAT 理事）

## 2) 翻訳品質の調査・研究

### 1. スタイルガイドの調査・研究

#### 【実績】

- JTF 日本語標準スタイルガイド（以下「JTF スタイルガイド」）を維持管理し、ウェブ上で PR を行った。
- JTF 翻訳品質セミナーを全 3 回で開催した（2017 年 5 月 22 および 26 日）。内容と講師は以下の通りである。
  - a. 「誰も教えてくれない翻訳チェック ～翻訳者にとっての翻訳チェックを考える～」(齊藤貴昭氏)
  - b. 「文書作成における接続詞の役割 ～接続詞を使うと文書は論理的になるのか～」(石黒圭氏)
  - c. 「論理的で翻訳しやすい日本語を書く」(中村哲三氏)

#### 【評価】

- JTF スタイルガイドは利用者が増えつつある。現在では翻訳業界のみならず、IT など他業界でも参照されている。
- JTF 翻訳品質セミナーには全 3 回で延べ 258 人の参加があった。

## 2. 翻訳品質評価ガイドラインの検討

### 【実績】

- ・ 翻訳品質委員会の部会である「翻訳品質評価ガイドライン検討会」を開催した（2017年7月、12月、2018年3月）。

### 【評価】

- ・ 検討会では委員間で活発な議論が行われ、ガイドラインの素案ができ上がった。
- ・ ガイドラインを2018年度に公開する見通しが立った。

### 【担当】

翻訳品質委員会

委員長：田中千鶴香（JTF 専務理事）／西野竜太郎（JTF 理事）

副委員長：東尚子（個人翻訳者）

委員：高橋聡（JTF 専務理事）、田嶋奈々（(株) 翻訳センター）、舟津由美子（個人翻訳者）

翻訳品質委員会部会 翻訳品質評価ガイドライン検討会

部会長：西野竜太郎（JTF 理事）

委員：工藤竜広（(株) サン・フレア）、久保田真司（パナソニック IP マネージメント (株)）、外山厚子（(株) ホンヤク社）、松下慶子（(株) クロスランゲージ）、三笠綱郎（(株) 十印）、吉川未希子（(株) ヒューマンサイエンス）、若林啓子（(株) クロスランゲージ）、および JTF 翻訳品質委員会委員

## ■2. 翻訳事業に関する研修会及び講演会等の開催（定款第4条第2号関係）

### 1) JTF 翻訳セミナーの開催

#### 【開催実績】

東京の「剛堂会館」を会場とし、合計6回の翻訳セミナーを実施した。

- ・ 第1回 2017年6月28日「翻訳コーディネータの今と未来を考える～書を捨てよ、麴町に出よう～」  
成田崇宏氏（(株) ホンヤク社 PM/QC/VM/TE センター 統括部長）、澤村雅以氏（SDL ジャパン (株) RVP PMO APAC）、田中美智子氏（(株) 翻訳センター 工業・ローライゼーション営業部 名古屋オフィス マネージャ）、千葉容子氏（(株) 十印 プロダクション本部 マネージャー）  
参加者数：セミナー133名（会員109名／非会員24名）、懇親会35名
- ・ 第2回 2017年8月3日「医薬翻訳セミナー ～正確に読み、訳するためのヒント～（事前課題あり!）」  
森口理恵氏（R&A メディカル 代表）  
参加者数：セミナー87名（会員25名／非会員62名）、懇親会20名
- ・ 第3回 2017年10月13日「それぞれの翻訳品質～発注企業、翻訳会社、翻訳者の視点から～」  
上田有佳子氏（ネットアップ (株) グローバリゼーション チーム リード）、高橋聡氏（個人翻訳者、JTF 専務理事）、西野竜太郎氏（(同) グローバリゼーションデザイン研究所 代表社員、JTF 理事）、森口功造氏（(株) 川村インターナショナル 常務取締役）  
参加者数：セミナー69名（会員36名／非会員33名）、懇親会15名
- ・ 第4回 2017年12月14日「Word を翻訳マシンにチューニングする～今日からできる Word のカスタマイズ～」  
新田順也氏（エヌ・アイ・ティー (株) 代表取締役／ブログ「みんなのワードマクロ」管理人）  
参加者数：セミナー62名（会員21名／非会員39名／翻訳学校2名）、懇親会8名
- ・ 第5回 2018年2月8日「翻訳と通訳のあいだ～思考プロセスの狭間を可視化する」

関根マイク氏（会議通訳者、JACI 理事）、高橋聡氏（実務翻訳者、JTF 専務理事）、松丸さとみ氏（実務翻訳者、ライター）

参加者数：セミナー46名（会員12名／非会員26名／翻訳学校8名）、懇親会17名

- ・第6回 2018年3月8日「ニューラル翻訳（NMT）の実体とその周囲の実態に迫る ～NMT との  
良い関係の確立を～」

隅田 英一郎氏（NICT フェロー、先進的音声翻訳研究開発推進センター副センター長、JTF 理事、  
AAMT 理事）、内山将夫氏（NICT）、三笠綱郎氏（（株）十印 クオリティマネジメント・MT 戦略  
部 マネージャー）

参加者数：セミナー132名（会員82名／非会員49名／翻訳学校1名）、懇親会23名

参加者合計：セミナー529名（会員285名[54%]／非会員233名[44%]／翻訳学校11名[2%]）  
懇親会118名

#### 【評価】

今年度も6回のセミナーをそれぞれテーマがだぶらないように調整し実施した。「翻訳コーディネーターの今と未来を考える」などは新しいテーマで多くの参加者を集めることができた。合計6回のセミナー参加者は529名と前年に比べて35%増加した。しかし一方で講師の選択にかなり悩む面もでてきた。翻訳祭、関西セミナーとの講師のだぶりやどうしても登場回数が多い方が生じてしまうため、参加者からも新しい講師の登場を待望する声も増えている。新年度は新たにオブザーバーにも加わっていただき、新鮮な翻訳セミナーを開催していきたいと考えている

#### 【担当】

翻訳セミナー企画運営委員会

委員長：中尾勝（JTF 副会長）

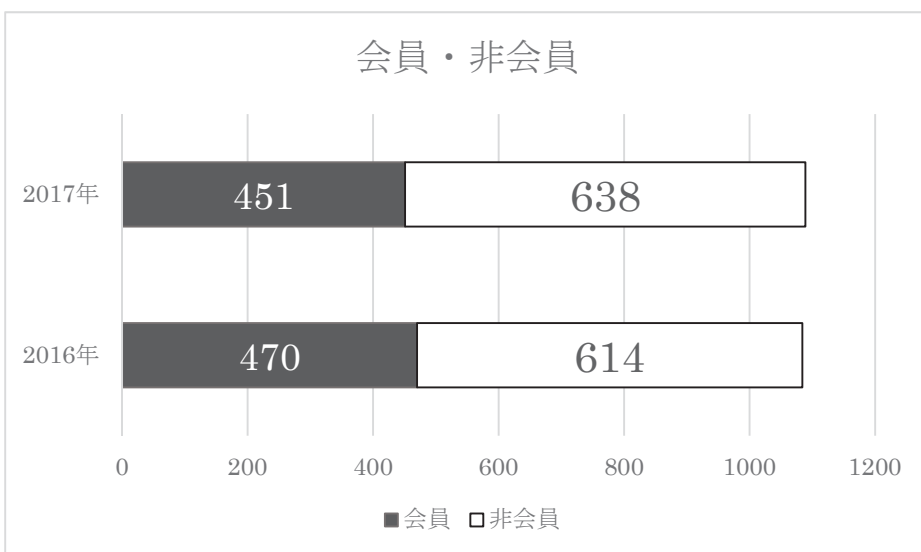
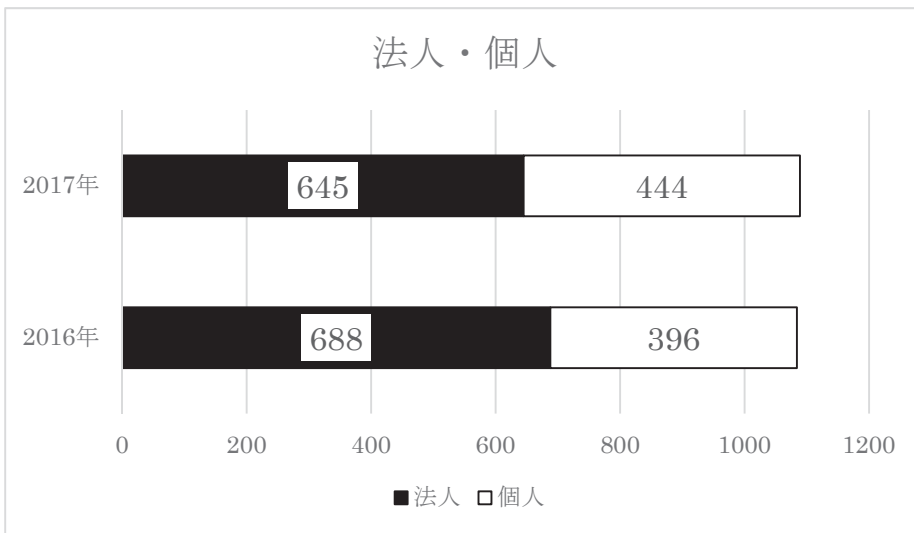
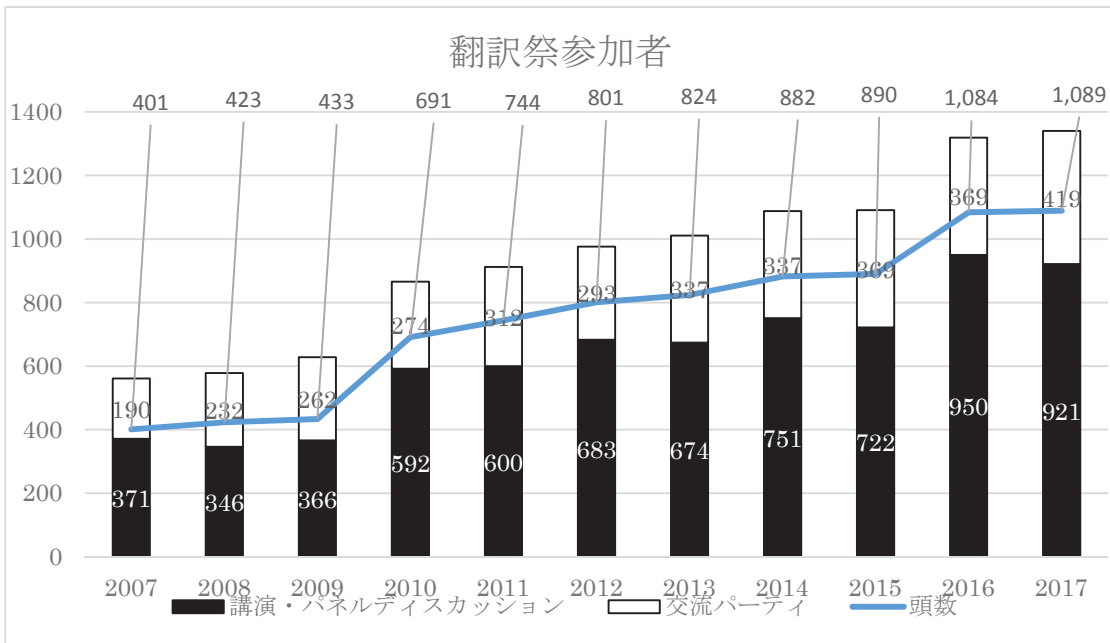
委員：小島伸一（（株）十印）、佐藤直樹（（株）アルク）

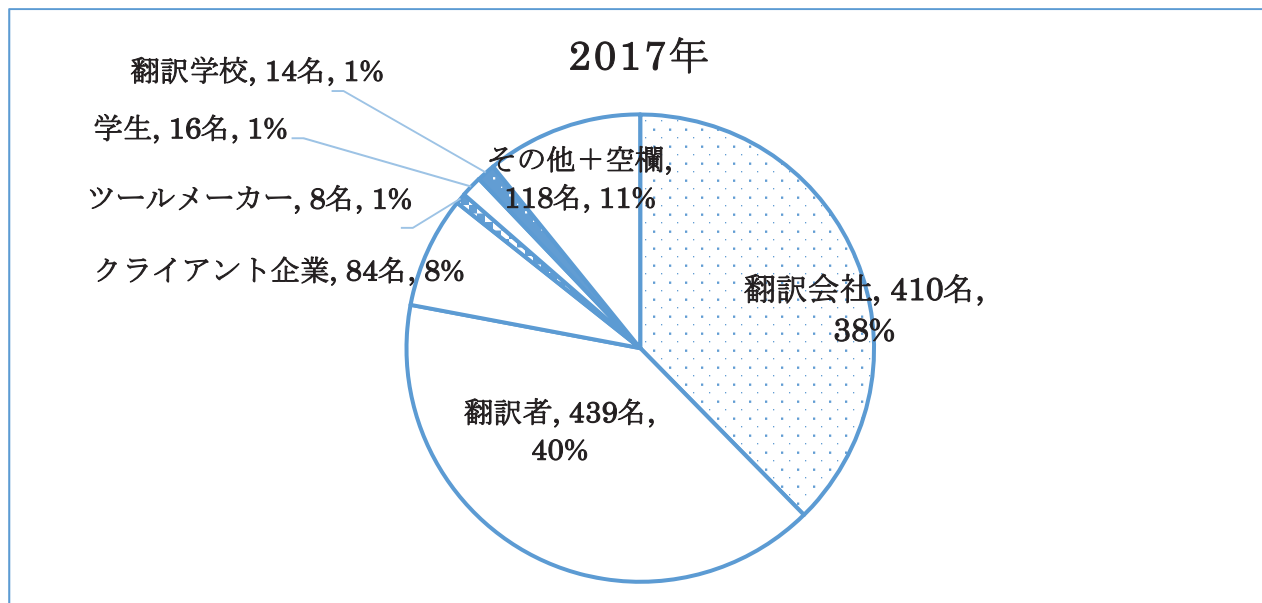
## 2) JTF 翻訳祭の開催

#### 【実績】

第27回 JTF 翻訳祭は、2017年11月29日（水）、例年どおり東京のアルカディア市ヶ谷（私学会館）で開催した。「きわめよう、それぞれの道～つなげよう、言葉の世界」というテーマを据え、セッションは従来どおりのフォーマットを踏襲したが、翻訳プラザとプレゼンテーション・製品説明コーナーの会場を分ける、1人10分の「ミニ講演会」を新設する、交流パーティーの式次第を変えるなど、新たな試みも導入した。参加者数は講演・パネルディスカッション921名、交流パーティー419名で総数1,089名となり、今年も過去最高を記録した。

《参加者データ》





**【評価】**

**《総括》**

古谷理事が第 26 回で定められた方向性を基本的に踏襲し、さらに発展させる形となった。その一方、アルカディア市ヶ谷のキャパがほぼ限界に達したため、第 26 回るとき一部の会場でかなりの混乱をきたしていたことを受け、第 27 回では運営の工夫でその問題をどうにか回避した。結果的には、満足度の高い翻訳祭とすることができた。

昨年以上に、多方面の登壇者にご協力をいただくことができたので、コンテンツ満足度についてはそれなりの勝算もあったが、集客については「会場の混乱を避けるため、昨年を下回ってもよしとする」方針としたが、最終的には集客面でも前年を上回った。

以上のことから、総合的に第 27 回翻訳祭は成功裏に終わったと言っていいだろう。昨年からはほぼ同じ顔ぶれとなった実行委員各位の活躍も大きかったが、根本的には第 26 回で古谷理事が掲げてくださった「翻訳者を大切にする」という大方針が、2 年をかけて実を結んだと言えるのではないだろうか。

**《来場者数》**

以下、3 年分のデータを示す。

第 26 回と比較すると、講演・パネルが微減、交流パーティーが増加、総数が微増となった。講演・パネルに関しては、会場の混雑を避けるため、あえて少なめで満員とした経緯がある。

**第 27 回**

- ・講演・パネル 921 名 (▲29)
- ・交流パーティー 419 名 (+50) 総数 1,089 名 (+5)

**第 26 回**

- ・講演・パネル 950 名 (+228)
- ・交流パーティー 369 名 (+32) 総数 1,084 名 (+194)

**第 25 回**

- ・講演・パネル 722 名

・交流パーティー 337名 総数 890名

個人翻訳者は、前年比 1.7 倍 (232→396) となった昨年をさらに上回った (396→444)。ただし、法人参加者は微減 (688→645)。

#### 第 27 回

・法人 645名 (▲43)  
・個人 444名 (+48)

#### 第 26 回

・法人 688名 (+30)  
・個人 396名 (+164)

#### 第 25 回

・法人 658名  
・個人 232名

会員・非会員の区分では、第 25→26 回ほど大きい変化は見られなかった。

#### 第 27 回

・会員 451名 (▲19)  
・非会員 638名 (+24)

#### 第 26 回

・会員 470名 (+50)  
・非会員 614名 (+144)

#### 第 25 回

・会員 420名  
・非会員 470名

### 《第 27 回翻訳祭の主な変更点と成否》

1. ひとり 10 分ずつ登壇してもらう「ミニ講演会」を導入 ○  
すこしでも多くの翻訳者、翻訳会社の方に登壇の場を提供するという目的だった。当初は 1 コマを予定していたが、予想外の応募があり、2 コマ開催とした。アンケート結果を見ても、個別の登壇者についてマイナス評価はあったものの、企画としてはおおむね好評だったようだ。
2. 全 6 トラック 24 セッション、各セッション 90 分というフォーマットを崩す構想 ×  
当初は 60 分枠なども検討したが、実施には至らなかった。
3. 講演料の柔軟な設定 ◎  
著名な翻訳家、多忙な実業家などの講演を実現するため、一律ではなく 5～10 万円の範囲で講演料を柔軟に対応した。個別に見ると、集客結果が講演料に見合わなかったケースもあったが、プラスのほうが大きかったと言える。
4. 翻訳プラザと、プレゼンテーション・製品説明コーナーを分離 ○  
これまで、プラザの一角で実施していたプレゼンテーション・製品説明コーナーを別室 (3F) に移動。あわせて、企業セッションの数も増やした。プラザと別室になることで客足が遠のくかという懸念もあったが、結果的には登壇した企業の担当者からも好評だった。



5. 受付方法の変更（名札を廃止） △

1,000 人を超える規模となり、受付での混雑は不可避となった。そこで名札をやめ、ネームホルダーの色分けのみとした。交流パーティー参加者については、昼から名札を配布。受付の混雑は解消できたものの、アンケートを見ると「名札は欲しかった」という声が一定数あった。

6. 資料入れの変更（封筒ではなく、持ち手付きビニル袋に） ×

持ち手付きになったことは、アンケートを見ても評価された。ただし、袋の素材がまずく、セッション中にガサガサとかなりうるさかったとのこと。持ち手付きは踏襲したいが、素材については要検討。

7. パンフレットデザインの変更 ◎

これまでかなり長い間、同じデザイン会社のパンフレットだったが、やはりマンネリ感じは否めず、JTF ジャーナルのデザインを依頼しているデザイン会社に変更した。雰囲気が多く変わったことが、参加者にも伝わったようだ。

8. 募集時のタイムテーブル廃止と、事前パンフレットの配布 ○

第 26 回では、事前の聴講希望データから、特定のセッションでかなりの混雑が予想されたものの、すでに発表している関係で会場変更がかなわなかった。そこで、いわば苦肉の策ではあったが、募集時には時間割も会場割も発表せず、登壇者とセッション内容の告知にとどめた。その後、聴講希望データを見ながら、約 1 カ月後に時間割のみ発表。会場割はぎりぎりまで調整できるようにした。当日、人気のセッションでもそれほどの混乱を招かなかったのは、この策が成功した証拠だったと思う。ただし、やはり「申し込みの段階で時間割は欲しかった」という声がアンケートでは少なくなかった。これも、今後の課題だろう。

9. 交流パーティー、式次第の変更、司会の交代 ◎

今までの交流パーティーは、ほんやく検定合格者の表彰と挨拶が開始 1 時間後くらいにあった。すでに歓談まっさかりで、これに目を向ける人は少なく、合格者に対して申し訳ないという思いがあった。そこで、パーティー冒頭の挨拶をできるだけ短縮し、合格者表彰と挨拶も乾杯の前に済ませることにした。今後もこのフォーマットが望ましいと思う。

また、交流パーティーは長年、星田理事に司会をお願いしていたが、今年は実行委員のひとりに依頼した。

10. 3 階男子トイレの開放 ◎

会場に関する苦情として、女子トイレの不足も深刻だった。完全解決はできないが、3F 男子トイレを女子用として使ってみた。アンケートでも好評をいただいた。

### 《反省点》

コンテンツについては、もちろん一定数の不満はあるものの、全体の満足度は十分だったと考える。一方、会場に関する不満については、第 26 回と同様だった。どのセッションも「立ち見」まででほぼ収容できたが、機械翻訳のセッション 2 つについては、「立ち見もできなかった」という声があり、240 人規模の会場がもうひとつ必要だったか、という結果となってしまった。

ボランティアのうち、書記については態勢を再検討すべきかもしれない。場合によっては、有償でプロのライターを依頼する選択肢もあるのではないか。

### 《今後の課題》

第 26 回で明らかになったよう、現在のアルカディア市ヶ谷は、1,000 人を超えるイベントには適して



ない。セッション会場は増やすこともできるが、そもそも施設に限界を感じる。そこで、2018年の第28回は、あえて東京以外での開催を決定し、石岡委員長のもとで準備が進んでいる。

その翌年となる2019年第29回については、ふたたび東京開催となるため、アルカディア市ヶ谷に代わる会場を探さなければならない。第29回翻訳祭準備委員会のようなチームを編成する必要があるだろう。

**【担当】 翻訳祭企画実行委員会**

委員長：高橋聡（JTF 専務理事）

委員：金楓（スピード翻訳（株））、齊藤貴昭（JTF 理事）、平野久美（個人翻訳者）、松丸さとみ（個人翻訳者）、矢能千秋（個人翻訳者）、渡邊麻呂（JTF 理事）

アドバイザー：井口耕二（個人翻訳者）、古谷祐一（JTF 理事）

### 3)JTF 関西セミナーの開催

#### 1. JTF 関西セミナーの開催

関西、西日本在住の会員、会員候補の方々に、興味深いトピックを提供し、交流を図る。JTFのプレゼンスを高め、会員の継続、増加を促す。

第1回：若手、学生さんたちに翻訳業界を紹介

日時：7月10日13:00～17:00

タイトル：「翻訳・通訳業界に未来はあるか？グローバル・コミュニケーションのパートナーとしての翻訳・通訳業界」

会場：グランフロントコングレナレッジキャピタル

登壇者：

第Ⅰ部 東郁男氏（JTF 会長）

第Ⅱ部 村下義男氏（(株) コングレグローバルコミュニケーションズ）、福富美子氏（(株) アルビス）、橋本富貴子氏（伝（株））、石岡映子氏（JTF 理事）

第Ⅲ部 北山匠氏（(株) 翻訳センター）、古野枝里佳氏（(株) アスカコーポレーション）、矢野和美（JTF 事務局）

翻訳業界リーダーのパネル、若手社員、事務局長参加によるパネルディスカッション、展示なども行い、学生、若い人たちへの参加を促した。

参加者数：セミナー89名（会員44名 非会員34名 学生11名）、懇親会37名

第2回：アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）とのMTサミット協賛

日時：9月22日14:00～17:00

タイトル：「Machine Translation Summit XVI Workshop: Machine Translation acceptance among the Language Industry」

会場：名古屋大学豊田講堂

演者：Mike Dillinger, PhD (LinkedIn、米国機械翻訳協会元会長)、Manuel Herranz, CEO (Pangeanic)、

Dimitar Shterionov, PhD (KantanMT)、佐藤弦氏 (SDL ジャパン)、内山将夫氏 (NICT)、河野弘毅 (JTF 理事)

参加者数：約 80 名

第 3 回：翻訳の品質管理を考える

日時：2018 年 1 月 26 日 14:00～17:00

会場：大阪大学中之島センター

タイトル：「誰も教えてくれない翻訳チェック ～翻訳者にとっての翻訳チェックとは?～」

演者：齊藤貴昭氏 (JTF 理事)

参加者数：セミナー99名 (会員 24名 非会員 72名 学生 1名 翻訳学校 2名)、懇親会 12名

第 4 回：翻訳者のスキルアップ

日時：3 月 2 日 14:00～17:00

タイトル：「脱・辞書の持ち腐れ《60Hz》～どの辞書をいつ引くか～」

登壇者：深井裕美子氏 (翻訳者、通訳者、翻訳講師)、高橋聡氏 (JTF 専務理事)

参加者数：セミナー99名 (会員 18名 非会員 77名 学生 1名 翻訳学校 3名)、懇親会 23名

総評：

総参加者数 (3 回分)：セミナー287名 (会員 86名 非会員 183名 翻訳学校 5名 学生 13名)、懇親会 72名、第 2 回は約 80名

今年度は、人気のあるセッションだけでなく、新しい取り組みを加えた。まず、新卒社員を対象にしたセミナーを企画し、複数登壇者によるパネルディスカッション、展示も行った。同じく初めての試みとして AAMT への協賛を行ない、名古屋開催の国際会議 MT サミットに参加した。齋藤理事、高橋理事などの人気講師を招へいし、盛会の中、次年度翻訳祭へのプロモーションを行い、勢いをつけた。

#### 【担当】

関西委員会

委員長：石岡映子 (JTF 理事)、

委員：安達久博 (JTF 理事)、安藤惣吉 (JTF 理事)、大野里奈 ((株) ウィズウィグ)、川崎葵 ((株) アスカコーポレーション)、近藤美樹 ((株) 翻訳センター)

### ■3.翻訳事業に関する人材育成及び資格能力審査の実施 (定款第 4 条第 3 号関係)

#### 1) 「JTF ほんやく検定」の実施

##### 【実績】

第 67 回を 2017 年 7 月、第 68 回を 2018 年 1 月に以下の通り実施した。

- ・第 67 回：2017 年 7 月 22 日 (土) 受験者数 607 名
- ・第 68 回：2018 年 1 月 27 日 (土) 受験者数 560 名 合計 1,167 名 (前年度 1,125 名)

受験方法：インターネット受験

科目：(基礎レベル) 5級/4級 (実用レベル) 英日翻訳/日英翻訳

実用レベル選択分野：(1) 政経・社会、(2) 科学技術、(3) 情報処理、(4) 医学・薬学、(5) 金融・証券、(6) 特許

第 27 回 JTF 翻訳祭において、「検定 1 級合格者の表彰式」を行った。

翻訳者評価登録制度 (日本規格協会 翻訳者評価登録センター) の翻訳検定試験として登録された。

#### 【評価】

受験者総数は 1,167 名であり、前年度比で 3.7%アップとなった。JTF 公式 Web サイト「検定合格者リスト」(JTF 会員専用) 及び JTF 機関誌(印刷版および Web 版)「日本翻訳ジャーナル (#290&293) に第 66 回、第 67 回の 1・2 級合格者プロフィールを掲載し、JTF 加盟翻訳会社と合格者の仕事マッチングに寄与した。

## 2) 「JTF ほんやく検定」問題・解説集の刊行

#### 【実績】

過去問題・解説集の刊行

「JTF ほんやく検定」各回につき実用レベルの全分野・全科目と基礎レベルの問題・訳例・解説で構成される過去問題・解説集を以下の通り刊行した。販売部数は約 1,021 部 (前年度 850 部) となっている。

第 66 回：2017 年 6 月下旬刊行/第 67 回：2017 年 12 月下旬刊行

#### 【評価】

問題・解説集については、毎回受験者及び購入希望者からの問合せが数多く寄せられている。受験前の傾向と対策及び受験者の復習ツールとして、翻訳力向上のための有益な媒体となっている。

#### 【担当】ほんやく検定委員会

委員長：植田忠志 (JTF 理事)

委員：安藤惣吉 (JTF 理事)、原田真 ((株) ホンヤク社)、星田和恵 (JTF 理事)

## ■4. 翻訳事業に関する情報の収集および提供 (定款第 4 条第 4 号関係)

### 1) JTF 日本翻訳ジャーナルの編集発行および 2) JTF ホームページの企画・運用

#### ■2017 年度事業報告

#### 【収入】

	2016 年度広告料収入 (2017 年 3 月末時点)	2017 年度広告料収入 (2018 年 1 月末時点)
ジャーナル (41)	1,964,010 円	2,684,902 円
ホームページ (42)	2,636,500 円	3,489,060 円

## 【実施】

日本翻訳ジャーナルの編集・発行

- ・事業計画にしたがって『JTF ジャーナル』本誌を年間 6 冊発行した。
  - ・ 5/6 月号(通算 289 号)特集「翻訳者の資格登録制度」2016 年 5 月上旬発行
  - ・ 7/8 月号(通算 290 号)特集「通訳事業入門」7 月上旬発行
  - ・ 9/10 月号(通算 291 号)特集「ISO 規格の最新動向」9 月上旬発行
  - ・ 11/12 月号(通算 292 号)特集「第 16 回機械翻訳サミット報告」11 月上旬発行
  - ・ 1/2 月号(通算 293 号)特集「第 27 回 JTF 翻訳祭」2017 年 1 月上旬発行
  - ・ 3/4 月号(通算 294 号)特集「対談 長尾真×賀沢秀人」3 月上旬発行
- ・ JTF ジャーナルは 2016 年度までフリーマガジンとして原則として PDF のみで提供されていたが、2017 年 5/6 月号(289 号)から JTF 会員に対しては印刷したジャーナルを送付するように変更した。
- ・ JTF ジャーナルの郵送時にチラシ広告を同封するサービスを新しく開始し、広告収入を増やした。

JTF ウェブサイトの企画・運営

- ・ 2017 年度はウェブサイトの全面的なリニューアルは行わず、2016 年度と同様に委員会ごとに担当ページの作成と更新を行った。
- ・ 年度中に判明したパスワードに関連するセキュリティ上の脆弱性については、改修を行なって改善した。

## 【担当】

広報委員会

委員長：河野弘毅（JTF 理事）

委員：石川弘美（翻訳会社勤務）菊田直歩（翻訳会社勤務）、齊藤貴昭（JTF 理事）、高橋聡（JTF 専務理事）、古谷祐一（JTF 理事）、矢野和美（JTF 事務局）

## 3) 翻訳支援ツールの活用検討及び最新情報の提供等

### 【実施実績】

本年度は、下記内容にて翻訳支援ツール説明会を開催した。

日時：2017 年 8 月 21 日

共通テーマ：「クラウドを活用したコミュニティ翻訳」

第一部：「大学向けオープンソースソフトウェアの翻訳に適用する共通翻訳メモリの開発と実践」

第二部：「Transifex を利用したコミュニティ翻訳 ～オンライン翻訳ツールを活用した翻訳ワークフローの自動化～」

常盤祐司氏（法政大学 情報メディア教育研究センター教授）

出口大輔氏（名古屋大学 情報連携統括本部情報戦略室准教授）

会場：「GMO スピード翻訳（株） 会議室」

参加者数 39 名（会員 22 名 非会員 17 名）、交流会 3 名

### 【評価】

無料で使えることが魅力の「オープンソース」に対する一定の需要を確認することができた。特にこれから翻訳支援ツールを導入しようとするソースクライアントや翻訳エージェントからの関心の高さが伺えた。セミナー自体は満席であったが、交流会への参加は想定していたよりも少なく、課題が残ったため、アンケート結果等から次回の対策を講じたい。

### 【担当】

翻訳支援ツール委員会

委員長：古谷祐一（JTF 理事）

委員：目次由美子（産業翻訳コンサルタント）

## 4) 翻訳業務取引上のトラブル防止

### 【実施実績】

複数の JTF 個人会員の方と法人会員 1 社から、アフリカのマリ共和国の有名人や権威筋を装った詐欺事件(未遂)の報告があった。会員など JTF 関係者に限ってみてもほぼ同じ内容の e-mail が同じ人に複数回届いているため、JTF 会員に向けて注意喚起メールを送付した。

<詐欺手口>

マリ共和国の著名人あるいは大臣を騙った人物から翻訳を依頼するメールが届く。仕事を引き受ける旨を通知すると、納期や翻訳料の金額などについての取り決め、契約書などの取り交わしが行われその後、「翻訳料の前金（日本円で 50 万円相当など大きな金額）を支払いたいが、その前に（翻訳者サイドから）保証金（同 2～3 万円ほど）を支払って欲しい、かつ支払い時の振込データと（翻訳者の）パスポート番号も教えて欲しい。」とメールが届く。

今回報告を寄せてくれた人たちの場合、この時点で不審に感じ、自分の取引銀行などに問い合わせることで難を逃れている。

この件を貿易・投資促進と開発途上国研究や輸出支援などを行っている政府系機関に相談した翻訳者があり、「セーフティ料（メール内では "security deposit" と表現）ではなくパスポート番号の入手を目的としている。類似の手口で法人企業も被害に遭っている」という説明を受けたとのことで、トラブル防止委員会も多様な被害リスクの可能性を改めて認識するに至った。

### 【評価】

日本語、英語を問わず怪しいメールが届く昨今、この件について会員に注意喚起するべきか迷った。ただ JTF 事務局や会員企業に連絡をくれた人以外にもかなり広範に、しかも複数回メールを送ってきているらしいこと、手口が巧妙であることなどから注意喚起メールの送付に踏み切った。

翻訳者、翻訳会社とも日本国外からの仕事案内や照会を受け取る機会が増えていると思われるので、今後はこのようなトラブル発生が増えるのではないかと憂慮している。

### 【担当】

トラブル防止委員会

委員長：星田和恵（JTF 理事）

## 5)組織強化の推進

### 【実績】

- ・事業規模拡大に伴い、理事・各委員長および事務局の業務も増加しているため、業務効率化の準備作業として、事務局業務の業務調査、ならびに web・業務システム活用に関して外部業者と打ち合わせを実施した。
- ・改選期ではなかったが理事を増員し、また各委員会についても委員を増員し体制強化を図った。

### 【評価】

- ・事務局業務の効率化については、業務フローの確認、業務調査の実施により、来期からの効率化作業の基盤を作ることができた。
- ・翻訳祭 2018 京都の開催準備については理事、委員の増員により前倒しで、企画・会場決定等の作業が可能となった。

### 【担当】

組織委員会

委員長：東郁男（JTF 会長）

委員：河野弘毅（JTF 理事）、瀧谷仁（JTF 事務局）、竹之下麻里（JTF 事務局）、矢野和美（JTF 事務局）

## 6)翻訳・通訳事業の ISO 規格化に向けた取り組み

### 【実績】

- ・翻訳に関する国際規格 ISO17100 については、引き続き普及・広報活動を実施した。
- ・「翻訳者資格登録制度」の 4 月開始に伴い、日本規格協会主催の制度説明会（東京・大阪）に参加し、業界内での PR 活動を実施した。また制度運営のため登録制度の各委員会に参画し、運営の適正化に努めた。
- ・規格策定の検討段階にある通訳・機械翻訳関連規格については、JTF 内 ISO 規格検討会、ISO/TC37 国内委員会・国際年次総会、web 会議等で引き続き議論・検討を行った。

### 【評価】

- ・ISO17100 認証取得企業については現在 34 社と徐々に増加しているが、翻訳者資格登録制度については、日本規格協会と協議の上で引き続きの普及活動が必要である。

### 【担当】

組織委員会部会 ISO 規格検討会

部会長：東郁男（JTF 会長）

部会委員：田嶋奈々（(株) 翻訳センター）、森口功造（(株) 川村インターナショナル）

## 7) 通訳事業に関する講演会等の開催及び調査研究

### 【実績】

- ・ 翻訳祭で通訳関連セッションの開催、業界調査の中で通訳関連項目を追加し調査を実施した。

### 【評価】

- ・ 翻訳祭で通訳関連セッションを開催したが、集客については検討が必要である。
- ・ 業界調査の項目に通訳関連項目を追加、報告書の完成後、次の展開について検討したい。
- ・ 取り組みを推進するために、通訳担当理事の設置を検討する。

### 【担当】

組織委員会部会 通訳部会

部会長：東郁男（JTF 会長）

## ■5. 通訳事業に関する内外関連機関との連絡および協調（定款第4条第5号関係）

### 【実績】

- ・ 引き続き、日本翻訳者協会（JAT）、アジア太平洋機械翻訳協会（AAMT）、テクニカルコミュニケーター協会（TC 協会）、日本知的財産翻訳協会（NIPTA）、日本規格協会（JSA）などの国内関連団体との相互協力を行った。また GALA、LocWorld などの海外関連団体とも継続して情報交換を図った。

### 【評価】

- ・ 理事、委員長の協力により多方面の団体との関係強化が図られており、来期、翻訳祭等における連携、協業への進展が大いに期待できる。

### 【担当】

組織委員会

委員長：東郁男（JTF 会長）

委員：中尾勝（JTF 副会長）、高橋聡（JTF 専務理事）

会員数（2018年3月31日現在）

	期首	期末
法人会員	204	216
個人会員	328	347
賛助会員	2	2
合計	534	565